

## 山形発・地元ナース養成プログラム 事後評価結果：S評価

- 課題解決型高度医療人材養成プログラムとは「我が国が抱える医療現場の諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成する大学の取組」を文部科学省が選定・支援するものです。
- 本学の「山形発・地元ナース養成プログラム」も選定事業の1つでした<事業推進代表者：青柳優 前学長(H26～27)・前田邦彦 学長(H28～30)、事業推進責任者：菅原京子 看護学科教授>。
- 令和元年8月26日、文部科学省から課題解決型高度医療人材養成プログラムの選定事業(H26～30年度)の事後評価結果が発表されました。
- 選定事業全体(26件)のうち「S評価」は4件でした。「S評価」とは「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる」というものです。
- 看護系大学の選定事業5件中、「S評価」は**本学のみ**でした。この良い評価は、看護学科と看護実践研究センターの教職員、看護学科学生、小規模病院等看護職、協力病院をはじめとする関係機関の全員への評価であるとともに、本学全体への評価と受け止めています。また、山形県や山形県看護協会、山形県町村会にも大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。
- 2ページに推進委員会からのコメントを、3ページに文部科学省へ提出した成果報告のポンチ絵を載せました。詳しくは、是非、文部科学省のホームページをご覧ください。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/iryuu/1420453.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1420453.htm)
- 今後も「地元ナース養成プログラム」推進に向け頑張りますので、宜しくお願い申し上げます。  
令和元年8月27日

学長 前田邦彦

看護学科長 遠藤恵子

事業推進責任者 菅原京子

## 課題解決型高度医療人材養成推進委員会コメント

### <優れた点>

- 地元小規模病院や協力病院との協働で地元ナース養成の体系的仕組みを構築し、全体的に目標以上の成果が得られている点は評価できる。
- 県内の小規模病院・施設計13施設が協力病院として参加し、人事交流や実習を通じてともに学生に多様な看護の場やその魅力を伝え、学生の地元看護への意識や進路に変化がみられること、この過程で大学と小規模病院等が「共に育つ」意識がみられ、リカレント教育受講者が大幅に増加したことは評価できる。
- 他大学や地元の小規模病院等が本事業を参考にして事業を立ち上げたことや、教育プログラムの持続ができる体制の検討がされてきたことがこの事業の実効性を物語っており、評価できる。

### <改善を要する点、今後の期待等>

- 教育内容の評価をできる外部評価員が少なく、地元のニーズを伝えるにとどまり、内容に踏み込んだ指摘内容とならず、事業内容のブラッシュアップにあまり寄与していないことが残念である。
- 本事業の目的である地域の暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護職の能力は、これから更に必要となる能力であり、ロールモデルとしての活躍が望まれる。
- 事業の成果の検証を継続的に行い、更なるブラッシュアップと発信を続けて、地方における質の高い看護の提供におけるリーダー的な役割を担うことが期待される。
- 今後、看護実践研究センターは看護学科の全教員等が兼務することになるため、取組が継続できるよう環境を整えることが必要である。

# 「課題解決型高度医療人材養成プログラム（2014年度選定分）」成果報告

取組大学：山形県立保健医療大学

事業名称：山形発・地元ナース養成プログラム ～地元医療福祉の担い手・住民の砦～

住民公募のロゴマーク  
地元ナースの種から芽  
がでるイメージを表現



**取組概要** 地元ナースとは地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等で地元住民の多様な健康問題に幅広く対応できる看護職です。（小規模とは原則200床未満）

● 地元ナース養成の体系的仕組みの構築に向け、地元医療福祉を強化した「学士課程教育」、小規模病院等の現職看護職の学び直しやキャリアアップを目指す「リカレント教育」や「看護研究相談・支援」、大学教員と小規模病院等看護職の相互理解のための「人事交流」のそれぞれの方法を開発し連携させます。地理的制約や公共交通機関の課題のある地方ならではのICT（Information and Communication Technology）の活用を推進します。

**なぜ、地元ナース養成？**  
大学の公式マスコットキャラクターのワイワイがあなたの問いに答えます！

- 全国的課題「少子高齢社会」「人口減少」
- 地方的課題「医療資源と公共交通機関が少ない」

**地方の住民は地元の小規模病院・診療所、高齢者施設での医療福祉が頼り**

看護学教育が応えられていない      大卒就職 稀

- ▶ 学士課程教育における地元医療福祉を強化した教育の体系化が不十分である
- ▶ 小規模病院等看護職の学び直しの機会不足と実習指導能力上の課題がある
- ▶ 大学教員自身、小規模病院等の看護実践経験不足

地元医療福祉コース（成人慢性期看護）  
学生が看護職に向け学びを発表・意見交換

**地元ナース養成プログラムの取組内容・取組実績は？**  
学生・教員「地元医療福祉への関心が深化」  
小規模病院等看護職「大卒看護職のロールモデルとなる基盤形成」

**学士課程教育：地元医療福祉を強化した教育内容・方法の開発、標準化**

<p>&lt;新設選択科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元論</li> <li>・ジェネラリズム看護論</li> <li>・相互理解連携論</li> </ul>	<p>目標：3分の2の学生が科目を選択（延287名） 実績：事業期間中、延433名の学生が少なくとも新規選択科目を1科目を履修</p>
<p>&lt;既存科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次の総合看護学実習に地元医療福祉コース設置</li> </ul>	<p>目標：小規模病院等のフィールド開拓 実績：事業期間中、12病院が新規フィールドに延38名の学生が実習</p>

**H30年度卒業生へのアンケート「地元で就業する価値の理解」**  
「とても」69.5%「少し」27.1%「あまり」3.4%  
地元医療福祉の担い手となることを希望し小規模病院就職者も出現

**発信**      **他大学等への波及**

**今後の取組は？**  
同等規模で継続・普及

- 学士課程教育：現行継続
- 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム：履修証明要件変更に合わせて内容構築し継続
- 診療所看護職向けの単発の研修会：継続
- コーンスカフェ：自主運営に発展
- 人事交流：内容を踏まえ名称変更し継続（事業名：相互交流）
- 看護研究相談・支援：大学の地域貢献事業に組み替えて継続
- ICT活用：継続
- 看護実践研究センター：地元ナース事業以外も管轄、看護学科教員と事務局職員全員兼務体制
- 外部評価の視点を持つ「地元ナース懇談会」を予定

**事業推進で工夫したことは何？**  
「組織化とPDCA」

- ▶ 看護実践研究センターに特任講師1名・職員2名配置
- ▶ 事業推進委員会の毎月開催と学長のリーダーシップ
- ▶ 看護学科教員とセンター教職員がチーム制で事業の企画/実施と自己評価を担当
- ▶ 事業企画・評価と人事交流を行う協力病院システムを構築：H26の5か所→H30で13か所
- ▶ 毎年1回、外部評価委員会を開催。県庁、看護協会等のほか、本学卒業で小規模病院勤務の若手看護師や、地元住民代表も委員委嘱

リカレント教育でICTを用いて大学と複数病院間を結びグループワークをしている場面

マイクスピーカー      カメラ

**リカレント教育：小規模病院等看護職のための教育内容・方法の開発**

<学校教育法105条対応：履修証明書発行>  
小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム  
科目：「看護の動向と課題」「根拠に基づく看護」「地域密着連携」「看護研究の基礎」

全科目履修（事業期間）  
目標22名・実績31名  
単元履修（事業期間）  
目標14名・実績153名

延300名がICTを利用

<アドバンス教育>  
フォローアップ研修      **自病院の新人教育等を協力で実施する志向の出現**

合計17名受講（事業期間）

交流の場の「Jナースカフェ」や診療所看護職向けの単発の研修会も実施

**人事交流：相互理解の促進**

大学教員→病院	毎年1～2名が参加
病院看護職→大学	延20病院・22名参加（事業期間）

**看護研究相談・支援**  
H27～30年度で合計125件

**ICT活用：遠方と大学を結ぶ**

民間汎用サービスを利用したリアルタイムの双方性活用の実用化を確立

自病院等の研修会を企画

**地元ナース**  
協調性と変革力のバランス

**地元ナース養成で目指す人材像とは？**

- ▶ 地元の強み・弱みを包括的に把握し、多職種連携により、住民力を生かした看護実践ができる看護職
- ▶ 国内外への発信力がある看護職
- ▶ 地元医療福祉の向上、ひいては地方住民の安心な生活・地域の活性化に寄与できる看護職

大都市圏と比較し様々な制約もある地方で活躍できる人材